

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2015年6月）

目 次

内 政

- ◆経済相の交代 2
- ◆右派政党の選挙連合 2

外 政

- ◆フィツォ首相のロシア訪問 2
- ◆GLOBSEC 2015の開催 2
- ◆キャメロン英首相のスロバキア訪問 3
- ◆「V4+仏」首脳会合 3

社 会

- ◆難民受け入れに反対する抗議集会 3

経 済

- ◆中国ファーウェイ社の新規投資計画 4
- ◆タカタ製エアバッグの不具合 4
- ◆スロバキア中央銀行中期予測（第2四半期） 4
- ◆スロバキア中央銀行月報（6月） 5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆経済相の交代（6月16日）

キスカ大統領は、暫定的にカジミール財務相が兼任していた経済相に、フダーク氏を任命した。同氏は与党Smerの党员ではないが、財務副大臣を務めていたことから、カジミール財務相に近い立場にある。新経済相の優先課題はビジネス環境の改善とモホウツェ原発の3号機及び4号機の完成である。フダーク氏は現政権下で3人目の経済相となる（当館注：暫定的に務めていたカジミール財務相を含めると4人目）。

◆右派政党の選挙連合（6月29日付スメ紙）

「普通の人々・独立した人達（OLANO）」及び「新たな多数派（Nova）」の両党は協力して来年3月の国会総選挙に臨む可能性がある。マトヴィチ党首によると、同党は小政党への票を無駄にしないことを重要視している。同党首は、「世論調査の結果は、11%前後で安定している」と述べた。OLANOとNovaの選挙連合は理に適ったものであり、「自由と連帯（SaS）」のガルコ副党首は、「両党は保守的な世界観を共有している。また、Novaは支持率が十分ではない」と指摘すると共に、選挙後のSaSと両党との協力に言及し、汚職対策等で共同歩調をとる可能性があることを示唆した。（当館注：29日、両党は選挙連合を組むことを発表した。）

外 政

◆フィツォ首相のロシア訪問（6月1～2日）

フィツォ首相はモスクワを訪問し、プーチン露大統領、ナルシュキン露国家院議長、メドヴェージェフ露首相等と会談を行った。訪問中、フィツォ首相は、クリミア併合後の対露経済制裁を批判し、「経済制裁は期待された効果を生んでいない。欧州もロシアも損失を受けており、誰が得をするのかわからない」と述べた。フィツォ首相はロシアで制裁を批判する一方、ウクライナをなだめることに努めていた。モスクワ訪問の前夜にはポロシェンコ・ウクライナ大統領に電話し、「対露経済制裁の問題でEUの一体性を壊すことはない」と述べ、経済制裁に不満があったとしても、制裁を維持していくことを明言した。

◆GLOBSEC2015の開催（6月19～21日）

GLOBSECは、外交・安全保障政策に関する国際会議としてブラチスラバにおいて毎年開催され、今回が10回目であった。欧州を中心とする世界各国から多数の政府要人、政治家、専門家、ジャーナリスト等が参加し、キスカ大統領、V4首相、キャメロン英首相、マケイン米上院議員、欧州各国の大統

領・首相等が出席した。会議では、ウクライナ情勢、対露政策、欧州安全保障、エネルギー連合、「イスラム国」対策等が議論の中心となった。

◆キャメロン英首相のスロバキア訪問（6月19日）

ブラチスラバを訪問したキャメロン英首相はフィツォ首相と会談を行った。また、キスカ大統領との会談及び安全保障に関する国際会議「GLOBSEC 2015」での基調講演を行った。フィツォ首相とキャメロン首相との会談では、EU改革、競争力向上等が取り上げられた。移民問題に関して、両首相は加盟国への割り当てが解決にはならないという認識で一致した。フィツォ首相は、ギリシャ危機に関するスロバキアの立場について、「我々はギリシャがユーロ圏に留まるように努める一方で、ギリシャのユーロ圏離脱という危機的なシナリオにも備えている」と説明した。ウクライナ危機に関して、フィツォ首相は、対話こそが解決手段であり、更にはEUの連帯が必要であると主張した。

◆「V4+仏」首脳会合（6月19日）

ブラチスラバにおいてV4首相（フィツォ首相、ソボトカ・チェコ首相、オルバーン・ハンガリー首相及びコパチ・ポーランド首相）及びオランド仏大統領による「V4+仏」首脳会合が開催された。会合では、本年12月にパリで開催される気候変動会議（COP21）、経済成長、地域安全保障、移民問題、失業対策について取り上げられた。また、エネルギー分野における研究及びイノベーションへの支援についても合意した。更に、エネルギー安全保障、競争力及び持続可能性を向上させるための基盤となるエネルギー連合形成への支持を表明した。EUの危機管理能力の強化を目的とした共通安全保障及び防衛政策に関する複合的目標実現へのコミットメントをあらためて確認した。

社会

◆難民割り当てに反対する抗議集会（6月22日付スメ紙）

ブラチスラバで行われた難民割り当てへの抗議集会は、過激主義者の団結が可能であり、1つにまとまった場合には国会選挙で議席を得る可能性もあることを示した。デモを組織したコパーチ氏は来年3月の国会総選挙への野心及びコトレバ・バンスカー・ビストリツァ知事との協力の可能性についても示唆した。数千人がデモに参加し、米国及び難民割り当てを支持する欧州議員に対する中傷的なスローガンを叫んだ。急進主義者の妨害のために、自転車競技が中止となった。また、デモ参加者はブラチスラバ本駅においてムスリムの家族を襲った。警察は140名を拘留した。

経 済

◆中国ファーウェイ社の新規投資計画（6月1日付経済新聞）

ジリナ市のグロマ副市長は、世界第2位の通信機器メーカーである中国ファーウェイ社がスロバキアの頭脳と技術に注目していることを明らかにした。投資の内容は技術センターと生産工場の設置である。ファーウェイはブラチスラバかジリナのどちらかへの設置を検討している。同副市長は、「我々はジリナ地域をIT分野の重要拠点と考えている。この地域では、人口比で国内最多のIT専門家が働いている」と主張した。ファーウェイは8年前のスロバキアへの進出後、主に販売活動を行っており、2014年のスロバキア国内での売り上げは約2800万ユーロであった。

◆タカタ製エアバッグの不具合（6月26日付プラウダ紙）

スロバキアにおいても不具合のあるエアバッグを装備した車が数千台は走っていると見られる。スロバキアの関連する3つの輸入企業のうち、2社が回収を始め、1社は秋までに実施する計画となっている。所管機関は問題への対応を行っていない。スロバキアではトヨタ、日産及びホンダの車両が問題に関わっており、日産の場合には、2004年から2007年までに生産された車両、トヨタは2003年から2007年、ホンダは2000年から2010年までの数車種が関係している。

◆スロバキア中央銀行中期予測（第2四半期）

1. GDP

第1四半期のスロバキア経済は前期比で0.8%成長した。輸出と内需の成長は本年も継続し、2015年は経済成長が3.2%と加速し、2016年には3.8%、2017年には3.5%の成長が見込まれる。第1四半期の消費の伸びは期待ほどではなかったが、個人消費の伸びは2017年末までは加速する見込みである。企業マインドの改善及び金融緩和政策は、本年の投資需要を後押しすると考えられる。過去数年、投資が抑えられてきたことから、企業の投資拡大が予想され、2017年末までの中期予測の範囲では民間投資の続伸が見込まれる。

2. 労働市場及び賃金

本年の雇用率は昨年からの上昇傾向が持続する見込みである。失業率は低下傾向が継続し、2017年末には1桁台に下がる可能性がある。2015年の名目賃金の伸びは2.6%と予想されるが、公的部門については、より高い上昇率が見込まれる。来年以降はより高いインフレ期待が徐々に作用し、201

6年の名目賃金の上昇は3.6%、2017年は4.4%となる見込み。

3. 物価

物価は本年4月から上昇傾向に転じたと見られる。若干上昇した輸入価格がエネルギーを除く鉱工業製品の価格上昇に反映された。他方、エネルギー価格は依然として物価下落の圧力となっている。これらの要因から、本年の物価上昇率は0%前後と予測される。消費者物価指数は2016年には1.6%、2017年には2.2%と加速する見込み。

4. 貿易

2015年の外需の伸びの予測は3.9%と3月の中期予測から若干上昇した。今後、外需は2016年には5.2%、2017年には5.6%と徐々に加速する見込み。

◆スロバキア中央銀行月報（6月）

1. GDP

4月のスロバキア経済は、これまでの好調な動きにわずかな陰りが見られた。売り上げ全体の伸びは、前期比で4%に鈍化したものの、比較的高い水準に留まっている。伸びの鈍化（0.6%減）の主な要因は鉱工業、運輸業及び保管業であり、鉱工業部門では自動車部門の売り上げが鈍り、電機部門の売り上げ減少が更に進んだ。鉱工業生産は前期比2%の伸びを示した。自動車及び電機部門は共に生産全体の伸びへの貢献度は縮小したが、主に食品生産や電気器具の生産がそれを埋め合わせた。

2. 雇用率及び賃金

4月の雇用率の前年同期比での伸びは1.6%から1.8%と加速した。自動車販売、運輸、保管、IT及びその他の民間サービスを含む商業、サービス部門が雇用率の伸びを牽引した。失業者数が3200人減少した5月の失業率も予測に沿った雇用市場の動きを裏付けた。季節調整前の登録ベースでの失業率は前月比0.2%低下して11.48%となった。特定部門における4月の平均賃金上昇率は若干低い水準となり、前年同期比で1.7%であった。商業部門において最も賃金上昇が鈍り、鉱工業の多くの部門でもかなり鈍化が見られた。4月の平均名目賃金は833.3ユーロであった。

3. 物価

5月の消費者物価指数は本年4月と同じく前年同期比0.1%減であった。

エネルギーを除いた鉱工業製品価格及びサービス価格が若干加速した。これまでの輸入価格の上昇とユーロ安が、鉱工業製品の価格上昇の加速に反映されつつある。行政部門を除くサービス価格の動きは引き続き安定しており、過去12ヶ月、1.4%から1.5%の間で推移している。食料品価格の予測を上回る上昇を受けて、第2四半期中期予測よりも若干高い物価上昇が見込まれており、2015年下半期は0%を越えると考えられる。

4. 貿易

4月の輸出の伸びは鈍化したものの、依然として比較的高い水準にある。製品輸出は前期比3.2%増となった。4月の輸出は前年同期比0.2%増、輸入は1.4%増となった。4月の貿易黒字は1億9100万ユーロであった。

(了)

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

